

コロナ禍での取組の経過

新型コロナウイルスの感染が広がる中、協会が取り組んできたこと、日本や世界で起きた主な出来事と合わせて時系列でまとめました。

2020年

1月

WHO（世界保健機関）が新型コロナウイルスの発生を確認

2月

災害時多言語情報支援センターを設置
にほんご交流活動などの活動休止（約3か月）
多言語相談サービスの相談受付日を週1回から週4回に増設
Facebookページを10言語で開設

3月

豊中市内で1人目の感染者を確認

4月

大阪府を含む7都道府県に緊急事態宣言が発令（16日には全国に拡大）

5月

緊急事態宣言 関西は解除

6月

センターの貸室を全部再開
協会ウェブサイトにも新型コロナウイルスに関する多言語情報特設ページの開設

7月

Gotoトラベルキャンペーン開始
国内の死者1000人を超える（クルーズ船除く）

8月

世界の感染者2000万人超

10月

オンラインでの日本語教室スタート
庄内公民館での日本語教室スタート

11月

大阪府、コロナ重症者数が国内最多に

外国人向けコロナなんでも相談会を共催で実施

12月

くらしを守る総合相談会
（主催：豊中市）で外国人相談を実施

多言語による情報発信

公益財団法人とよなか国際交流協会では、豊中市と締結した協定（2016年2月）に基づき、2020年2月3日に災害時外国人多言語情報支援センターを設置しました。

WEBSITE

11言語に対応



コロナ関連の特設ページも開設しました

【対応言語】

日本語
中国語
韓国語
英語
フィリピン語
スペイン語
ベトナム語
タイ語
インドネシア語
ネパール語
ポルトガル語

FACEBOOK

10言語に対応



ウェブサイトトップページから、各言語Facebookページにアクセスできます。

MAIL NEWS

9言語で配信



ウェブサイトトップページから、多言語メール配信の登録ができます。
お使いの携帯やスマホパソコンに情報を直接お届けします。



みなさんの周りの外国人にもぜひお知らせください。



※ネット環境が整っていない方には定期的に多言語で情報を郵送でお届けします。（送り先と言語をお知らせください）

【問合せ】公益財団法人とよなか国際交流協会

〒560-0026 豊中市玉井町1-1-1 エトレ豊中6階
TEL：06-6843-4343 FAX：06-6843-4375
E-mail：atoms@a.zaq.jp
WEB：https://www.a-atoms.info/index.php

【現状報告】

ATOMS × COVID-19

ASSOCIATION FOR TOYONAKA MULTICULTURAL SYMBIOSIS

コロナ禍におけるとよなか国流の取組

新型コロナウイルスの感染拡大が続いていますが、2020年のコロナ禍における支援の取組とこれらについてまとめました。

約 6000人

豊中市内には、93の国・地域出身の外国人（無国籍含む）が約6000人暮らしています。



1235件 594件

2020年 2019年

相談件数は昨年と比べて約2倍に増加しました。



1066件

2020年の多言語による情報発信件数は、1066件でした。



週 5日

多言語相談サービスはこれまで週1回でしたが、2020年2月より週4日、2020年4月より週5日で対応しています。



※2020年11月末時点の情報を掲載しています。
詳しくは協会ウェブサイトもしくは協会Facebookページにてご覧ください。

外国人の困りごと

豊中市内・市外に住む外国人から生活・仕事・健康・教育などについてさまざまな相談が寄せられています。

《仕事》

- ・失業した
- ・収入が減って困っている
- ・休業期間が長引いて困っている
- ・保険料や家賃の支払いが難しい
- ・仕事を探しているが、履歴書が書けない
- ・帰国できないので働きたいが、仕事が見つからない
- ・職場で感染者が出たが、ちゃんと説明してもらえない…など

母語じゃないから
感染者の状況が
よくわからない…。



《生活・子育て》

- ・コロナの状況がわからない
- ・豊中市の感染者の状況がわからない
- ・出産時の立会いがなく、外国で一人で出産するのは言葉もわからず、不安だ（国から親を呼ぶこともできない）
- ・緊急事態宣言が何かわからない
- ・休校の情報がわからない/学校からのお知らせが読めない
- ・給付金の手続きが難しい、書類が読めない
- ・外国人は給付金がもらえないといわれたが本当か
- ・差別・偏見が怖い…など

《健康》

- ・PCR検査をしたいが、どうしたらいいか
- ・帰国するのにPCR検査の結果がいるが、どこで検査できるか
- ・感染したら、どうしたらいい?…など

収入が減って
困っている…。



困りごとへの対応

外国人の状況や相談の内容などに合わせて、困りごとへの対応をすすめています。



zoom・Facebookメッセージを使った相談対応

新型コロナウイルスの感染拡大にともない、センターに足を運ぶことが難しい外国人のため、これまでの対面や電話の相談に加えて、zoomやメッセージを使った相談対応をしています。

特にzoomでは顔が見えることの安心感だけでなく、例えば画面を通しての申請書の記入の案内を行うなど、従来の相談対応に近い形で対応しています。

困りごとに応じた多言語情報の発信

外国人の困りごとは非常にさまざまであり、出身国・地域によっても寄せられる相談にちがいがあります。

その時の状況・対象者に応じて多言語情報を作成し、協会ウェブサイト・Facebook・多言語でのメール配信など、積極的に情報発信を行っています。

様々な機関と連携した相談会の実施

様々な困りごとが寄せられていますが、当協会だけでは十分な対応ができないこともあります。国際交流センターを会場にして、当協会、豊中市福祉部包括支援プロジェクトチーム、豊中市社会福祉協議会との主催で外国人向けコロナなんでも相談会を実施しました。

コロナ禍で減収した会社に解雇されて生活困窮に陥った人たち、在留資格の問い合わせ、家庭内の不和など様々な相談が寄せられました。

センター事業について

感染拡大により対面での活動・イベント開催が複数中止となりましたが、地域に暮らす外国人の孤立を防ぐため、できる限りの工夫をして事業を続けています。

にほんご交流活動

オンラインでの活動をスタートしています。おやこでにほんごでは、オンライン以外にも屋外で活動するなどしています。

協会主催のイベント

通常時より定員を減らし、事前申込制として、「国流シネマカフェ」「とよなかシネコン」などを開催。世界の料理を作る「世界を食べよう」では、自宅でチャレンジできるようにこれまで取り上げた料理のレシピ集の作成をすすめるなど、形を変えてさらに多文化共生がすすむように取り組んでいます。

➤ 今後必要な対応について

相談対応、多言語での情報発信、日本語学習など、外国人とつながる取り組み（孤立を防ぐ）をすすめています。現時点でこんな課題が見えてきています。

外国人の状況の実態把握

多言語情報がどれくらい届いたのか、生活状況の変化についてなど。

外国人に多言語の情報を届けるための工夫

発信方法の工夫（SNS、メール、郵送、口コミ…etc.）
外国人コミュニティとの連携

外国人がアクセスするハードルを低くする

社会保障制度や医療機関など

地域の人とのつながり直し

外国人が地域社会の一員として孤立しないための取組。

